

自主防災組織

東日本大震災時の自主防災活動

あの日あの時

泉区市名坂東町内会

避難生活が新たな交流を生む

集会所が避難所機能を発揮した

市名坂東町内会は、国道4号バイパスの東側にある127世帯の新興住宅地の町内会で、役員全員が女性の町内会です。以前この地区はバイパス西側の市名坂野蔵町内会に所属していたのですが、独自に防災対策を講じようと2007年に独立しました。3年ほど前から毎年防災訓練を行い、町内会費で備蓄米を集会所にストックするなど防災活動に取り組んできました。防災活動に熱心だったのは、他県から移り住んだ人や先の宮城県沖地震を体験していない人が多く住んでいるという理由からです。

先の宮城県沖地震時のライフラインの復旧状況を踏まえ、避難所はオール電化にしました。予想通り地震発生後3日目には電気が復旧し、煮炊きが可能となりました。3月11日避難者は約100人いましたが、小さな子供が多く、避難路にバイパスが横断し2キロも離れた指定避難所の小学校に向かうのは困難だったため、多くの住民が避難したと考えています。町内会に入ってもらえなかったマンションの住民も分け隔てなく受け入れました。

震災で新たな交流が生まれました。マンションから避難した大学生2人は、これまで縁がなかった町内会の人たちに世話になることで、自分ができることはやらなくてはという気持ちになったようで、子供たちと一緒に遊んだり、勉強を教えたり、乳児を抱えるお母さんの手伝いをしていました。人と人がつながり、支えあうことで、住民のほとんどが経験したことのない困難に立ち向かうことができました。

今後の備えとして防災無線のような、町内会の方々にリアルタイムに情報を提供できるものがあればいいなと考えています。また、停電に備え発電機の必要性を感じています。



▲オール電化の集会場に備蓄した物資